東山道武蔵路発掘調査概報

I

—都市計画道路3・4・6号線築造工事に伴う調査—

2008年3月

国分寺市遺跡調査会

巻頭図版1　SD2東山道武蔵路西側溝

北側　黄褐色土層検出状況（南から）

完掘（南から）

土層断面（南から）

巻頭図版２ SD5東山道武蔵路東側溝

検出状況　手前はP-5（北から）

完掘（南から）

土層断面（北から）

序

都市計画道路３・４・６号線の予定範囲に東山道武蔵路に関連する遺跡と恋ヶ窪遺跡の一部が存在する可能性が推定されたため、遺跡の存否確認調査を経て、本調査が実施された。その結果、当初の想定通り、東山道武蔵路の側溝跡と旧石器時代の遺物が出土し、該当地域における埋蔵文化財（遺跡）の包蔵地が知られた。

南北に敷設された東山道武蔵路の存在が国分寺市域において発掘調査され、現にそれが保存活用されている状況を踏まえての発掘であり、直線状に敷設された古代官道の実態解明に更なる手がかりを与えることになった。

この度の発掘範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、国分寺市都市建設部と教育委員会の工事に伴う事前協議によって発掘が実施され、東山道武蔵路の検出、さらには恋ヶ窪遺跡の範囲が拡大されて埋蔵文化財行政の一つの具体的事例となったことは喜ばしいことであった。

発掘調査の実現に尽力された関係機関と各位に敬意を表し、完成した報告書の活用を期待したい。

国分寺市遺跡調査会会長

坂　誥　秀　一

例　言

1. 本書は東京都国分寺市西恋ヶ窪一丁目47番、東恋ヶ窪三丁目21番において計画された、都市計画道路3・4・6号線築造工事に伴い実施した恋ヶ窪遺跡第82次・83次調査（略称K2-82・83）および東山道武蔵路第1次調査（略称K58-1）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。調査に係る費用は、国分寺市（都市建設部建設課）が負担した。
2. 現場作業は確認調査（K2-82）を平成19年9月3日から平成19年10月3日まで、本調査（K2-83・K58-1）を平成19年10月29日から平成19年11月29日まで行った。報告書作成のための整理作業は現場作業終了後速やかに着手し、平成20年3月31日の刊行とした。
3. 発掘調査は、小野本敦が担当した。
4. 本書の執筆・編集は小野本が行った。
5. 遺物の分類・実測・トレースは小野本・大下ゆみ・佐藤令が行い、上敷領久がこれを助けた。
6. 本書の挿図・表等の作成は桂弘美が行った。
7. 遺物の写真撮影は小野本・大下・佐藤が行い、版下作成は桂が行った。
8. 調査はトータルステーションによる遺物上げとパソコンによるデータ処理によって、作業の効率化を図り、データ処理・台帳作成ではマイクロソフト社「エクセル2002」、図版作成には、㈱こうそく「リプログラフ」、アドビー社「イラストレーター10」の各ソフトを用いた。
9. 本遺跡の出土遺物、調査記録、データは国分寺市教育委員会が保管している。
10. 発掘ならびに整理作業の従事者は以下の通り。

〔発掘作業〕

桂　弘美、藤崎　努（以上、国分寺市遺跡調査会）

加藤建設㈱、協和開発㈱

〔整理作業〕

桂　弘美、藤崎　努、大下ゆみ、佐藤　令（以上、国分寺市遺跡調査会）

なお、現場作業期間中、西野善勝氏（府中市教育委員会）、早川泉氏（大成エンジニアリング㈱）より、御教示を賜った。記して感謝申し上げる。

凡　例

1. 図面に使用した方位は旧国家座標系（測量法・国土調査法に定める平面直角座標系の第9座標系：原点は北緯36度東経139度50分：野田市）における座標北を示す。
2. 遺構、遺物の実測図の縮尺は下記に示すものを基本としており、その都度、スケールバーを各図面の下に示している。

遺構　全体図　1/600　1/300　1/200

個別遺構図　1/80　1/60　1/40

遺物　石器実測図・接合資料実測図　1/2

縄文土器　1/3

泥面子　2/3

遺物写真図版　縮尺約3/4

3. 本調査会では、遺構の発見順に遺構登録番号を付しており、その略称は次のとおりである。

ＳＤ：溝　ＳＫ：土坑　ＳＣ：炭化物集中部　ＳＴ：石器集中部　Ｐ：小穴

縄文時代の遺構は登録番号の末尾に「Ｊ」を付して区別している。

4. スクリーントーンの凡例は各図中に示した。
5. 土層注記および遺物観察表の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖　1997年版』に準拠しているが、一部鉤括弧付きで慣用的な表現を用いている。
6. 覆土のしまり・粘性は「非常に強い」「強い」「ややあり」「弱い」「非常に弱い」の5段階で表現した。

本文目次

序
例言
凡例

Ⅰ　調査に至る経緯…… 1
Ⅱ　調査区の概要…… 3
　1. 調査区の位置と環境
　2. 基本層序
Ⅲ　調査の経過…… 7
　1. 確認調査
　2. 本調査
Ⅳ　検出された遺構と遺物……11
　1. 歴史時代の遺構と遺物
　2. 縄文時代の遺構と遺物
　3. 旧石器時代の遺構と遺物
Ⅴ　小結……21
　1. 位置と形状
　2. 旧地形の状況
　3. SD5 ライン上の小穴
参考文献……25
Ⅵ　総括……27

挿図・図面目次

第 1 図　周辺地形ダイヤグラム …… 3
第 2 図　遺跡の位置 …… 4
第 3 図　調査位置図 …… 5
第 4 図　基本土層柱状図 …… 6
第 5 図　K2-82 次調査 全体図 …… 9
第 6 図　K2-83・K58-1 次調査 全体図 …10
第 7 図　泥面子実測図 ……11
第 8 図　A-1 区 平面図 ……13
第 9 図　SD2 溝　平面図・断面図 ……14
第 10 図　SD2 溝「黄褐色土層」上面 ……14
第 11 図　A-2 区 平面図 ……15
第 12 図　A-2 区検出遺構平面図・断面図 ……16
第 13 図　縄文土器実測図 ……17
第 14 図　B-5 拡張区 縄文時代全体図 ……17
第 15 図　B-1 区 遺物出土図 ……18
第 16 図　ナイフ形石器実測図 ……18
第 17 図　B-5 区 遺物出土図 ……19
第 18 図　石器実測図 (1) ……19
第 19 図　石器実測図 (2) ……20
第 20 図　調査区周辺の東山道武蔵路 ……22
第 21 図　東山道武蔵路エレベーション図 ……23

表目次

第 1 表　発掘調査工程表…… 8
第 2 表　歴史時代遺物観察表……26
第 3 表　縄文時代遺物観察表……26
第 4 表　旧石器時代遺物観察表……26

図版目次

巻頭図版 1　SD2 東山道武蔵路西側溝
巻頭図版 2　SD5 東山道武蔵路東側溝
図版 1　調査区東側全景・A-1 区
図版 2　A-2 区 (1)
図版 3　A-2 区 (2)・B 区全景・B-1 区・B-5 区
図版 4　B-1 拡張区・B-5 拡張区・作業風景
図版 5　歴史時代・縄文時代遺物
図版 6　旧石器時代遺物（1）
図版 7　旧石器時代遺物（2）

Ⅰ　調査に至る経緯

国分寺市長より平成19年6月20日付け国都建発第26号にて、都市道路3・4・6号線築造工事計画と埋蔵文化財保護との調整について、必要な措置等の指導を求める依頼が国分寺市教育委員会に提出された。当該地は国分寺市遺跡地図に表示されている周知の遺跡の範囲外ではあったが、恋ヶ窪遺跡に接しており、熊ノ郷遺跡とも近接する。また、恋ヶ窪遺跡でも断続的に検出されている東山道武蔵路の推定通過ラインも当該地に含まれる。こうしたことから、市教委はこれらの遺跡・遺構の有無を確認するための確認調査を実施すべきと回答した。

確認調査は市から委託された国分寺市遺跡調査会が行った。現地作業期間は平成19年9月3日から平成19年10月3日である。確認調査によって、東山道武蔵路の両側溝や旧石器時代・縄文時代の遺物が検出されたため、平成19年10月3日付け国都建発第76号にて、埋蔵文化財法第97条第1項、同第184条第1項及び文化財保護施行令第5条第1項の規定により、国分寺市長から東京都教育委員会教育長に遺跡発見の通知が提出された。

これに対し東京都教育委員会からは、平成19年10月15日付け19教生計埋第1568号にて、道路築造工事着手前に発掘調査を実施するようにとの通知があった。これを受けて市は、①恋ヶ窪遺跡の範囲を当該地区周辺まで拡大すること、②東山道武蔵路を遺跡として新規登録すること、の2点について埋蔵文化財包蔵地調査カードへの搭載を東京都に依頼するとともに、本発掘調査を引き続き国分寺市遺跡調査会に委託して実施した。本発掘調査の現地作業は平成19年10月29日から平成19年11月29日まで行い、引き続き室内整理作業に移行した。

国分寺市遺跡調査会構成員名簿（平成20年1月31日現在）

―――役員および監事―――

会　　長	坂詰秀一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	関口雄基臣	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理　　事	星野信夫	国分寺市長
理　　事	内田　修	国分寺市教育委員会委員長
理　　事	松井敏夫	国分寺市教育委員会教育長
理　　事	星野亮雅	元国分寺市社会教育委員
理　　事	古関　豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理　　事	北原　進	国分寺市文化財保護審議会委員
理　　事	坂本克治	国分寺市文化財保護審議会委員
理　　事	小菅政治	東京都教育庁生涯学習部計画課長
専務理事	竹内　悟	国分寺市教育委員会教育次長兼教育部長
監　　事	榎戸　潔	元国分寺市社会教育委員
監　　事	岡崎完樹	東京都教育庁生涯学習部計画課埋蔵文化財係長

―――武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会―――

委 員 長	坂詰秀一	（考古学）	立正大学名誉教授
委　　員	藤井恵介	（建築史）	東京大学大学院工学系研究科准教授
委　　員	佐藤　信	（古代史）	東京大学大学院人文社会系研究科教授

―――事務局―――

事務局長	福田信夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局員	豊泉文夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局員	太田和子	国分寺市教育委員会教育部 ふるさと文化財課文化財普及担当係長
事務局員	松田亜紀子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局員	中舎まり子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
事務局員	稲井　亮	国分寺市遺跡調査会

―――調査団―――

団　　長	坂詰秀一	立正大学名誉教授
主任調査員	上敷領久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	小野本敦	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調 査 員	中道　誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	立川明子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員

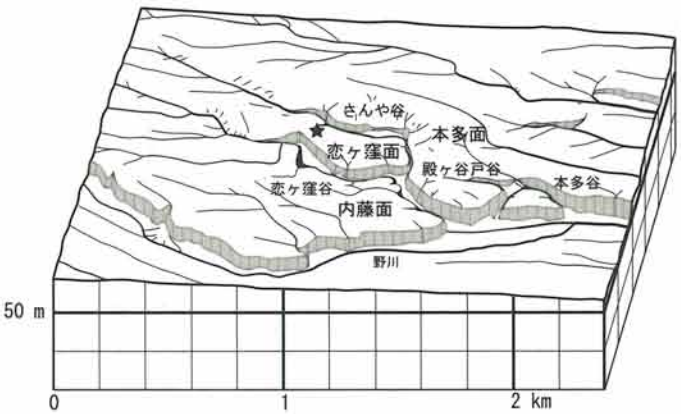
Ⅱ　調査区の概要

1. 調査地区の位置と環境

地理的環境　国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境に南北に分けられる。国分寺崖線は武蔵野台地を古多摩川が浸食することで形成された崖で、崖上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼称する。崖線沿いには付近の湧水を集めた野川が東流しているが、段丘面形成期には武蔵野段丘側からこれに注ぐ流れがあり、いくつもの開削谷を残している。当調査区は、そうした開削谷であるさんや谷と恋ヶ窪谷に挟まれた恋ヶ窪面の最奥部付近に位置している（第１図）。現在の町名では国分寺市西恋ヶ窪一丁目 47 番、東恋ヶ窪三丁目 21 番に所在し、町境を走る西武国分寺線によって東西に分断されている（第３図）。

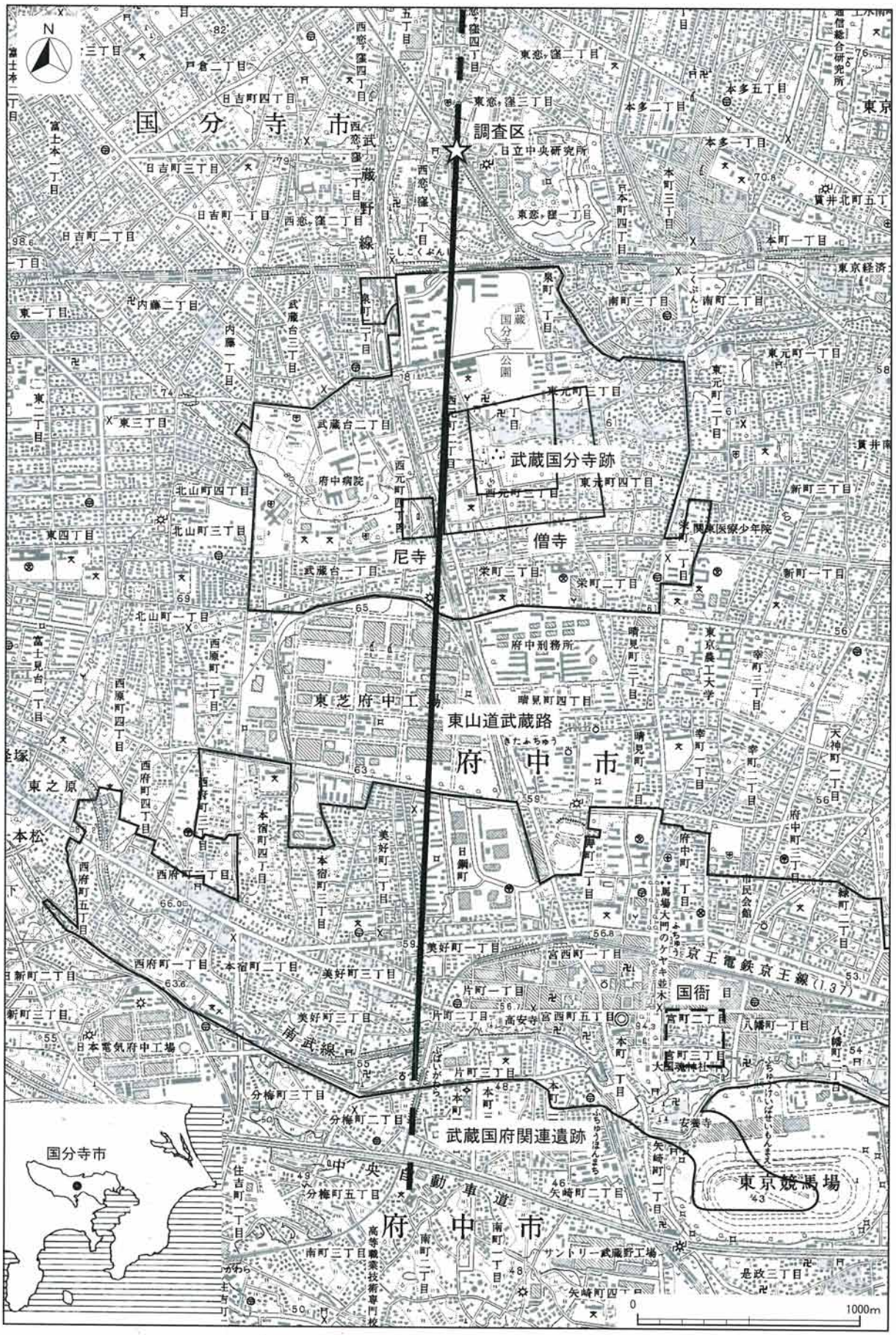
歴史的環境と周辺の遺跡　Ⅰで述べたように当調査区は、確認調査の結果、新たに恋ヶ窪遺跡に追加された地域である。恋ヶ窪遺跡は恋ヶ窪面の西半分を占めており、眼下を流れる野川源流の豊かな恵みを受けて縄文時代中期の大集落が形成された遺跡である。また、当調査区は昭和 23 年に当時国分寺住職であった星野亮勝氏がローム層中から黒曜石片を発見した熊ノ郷遺跡とも指呼の位置関係にある（実川 1986）。

縄文時代を最後に、恋ヶ窪周辺の土地利用は希薄となる。そうした中、古墳時代終末期～奈良時代の当地域に唯一残された土地利用痕跡が東山道武蔵路である。東山道武蔵路は『続日本紀』によれば上野国新田郡で東山道本道から分岐して武蔵国府に至る往還路であるが、明治期よりそのルートを巡って議論があった。しかし、所沢市東の上遺跡（飯田 1991）や当市の西国分寺地区の調査（早川・板野 1999）によって大規模な道路跡が発見されたことで、上野国と武蔵国を陸路で南北に結ぶ道路という見解が定着した。市内においても、東山道武蔵路は道路の両脇に側溝を持ち、道路幅約 12m を保ったまま直進することが判明している。恋ヶ窪遺跡においても、下水道敷設や個人住宅造に伴う調査によって東山道武蔵路の側溝に比定しうる溝が断続的に検出されている（広瀬・遠藤 1980、上村 1997）（第２図）。

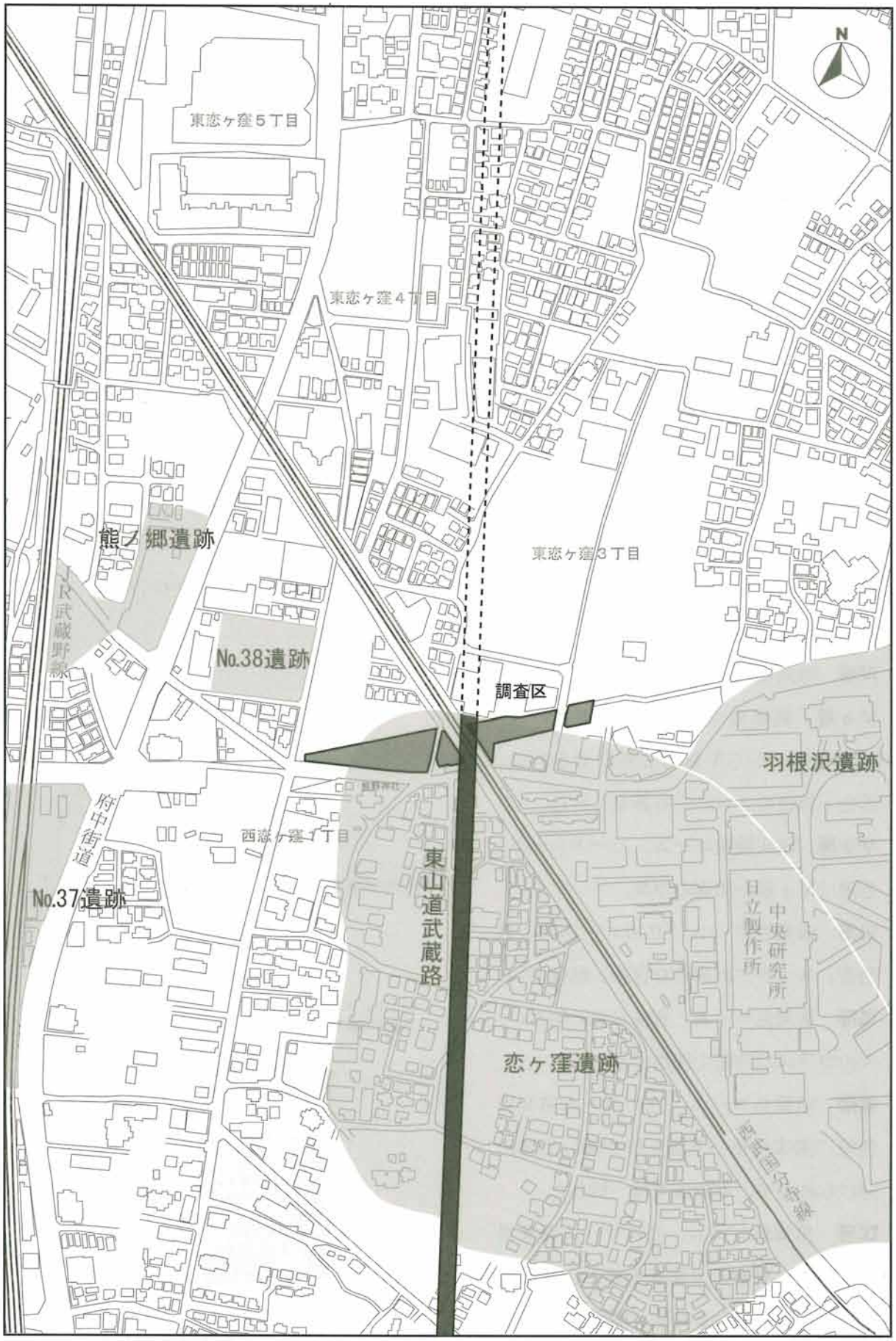


（★は恋ヶ窪遺跡の位置）

第1図　周辺地形ダイヤグラム


国分寺市
調査区
日立中央研究所
武蔵国分寺跡
僧寺
尼寺
東芝府中工場
東山道武蔵路
府中市
国衙
武蔵国府関連遺跡
東京競馬場
中央自動車道
京王電鉄京王線
南武線
国分寺市
0
1000m

第2図　遺跡の位置



第3図　調査位置図

0　100m

2. 基本層序

国分寺市遺跡調査会で用いる層位区分は、武蔵国分寺周辺の調査に基づいて設定されており、表土（Ⅰ層）下の黒色土が2枚に細分され、これをⅡ層・Ⅲ層と呼称している。従って下位のローム層の呼称については、一般的な立川ローム層（南関東の層位）の区分とはズレが生じている。恋ヶ窪遺跡や周辺の遺跡では、これまで立川ローム基本土層に準拠してきたが、本調査では歴史時代の調査が主体であったため、国分寺市遺跡調査会の層位区分を用いることとし、立川ローム基本層序との対応関係は第4図に示した。基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層　表土および耕作土。

Ⅱ層　黒褐色土。粒子が粗く、粘性に欠ける。歴史時代の堆積土に類似する。当調査区では検出されなかった。

Ⅲａ層　暗茶褐色土。粒子はやや粗く、粘性に欠ける。当調査区では検出されなかった。

Ⅲｂ層　暗茶褐色土。　Ⅲａ層より明度高い。本層の上面で歴史時代の遺構が検出しやすくなる。縄文時代の遺物を包含する。

Ⅲｃ層　茶褐色土。ローム漸移層。本層の上面で縄文時代の遺構が検出しやすくなる。上部に縄文時代の遺物を包含する。

Ⅳ層　暗黄褐色ローム。ソフトローム。

Ⅴａ層　黄褐色ローム。ハードローム。色調の違いからⅤ層は2層に分かれる。赤色・黒色のスコリアを多量に含む。

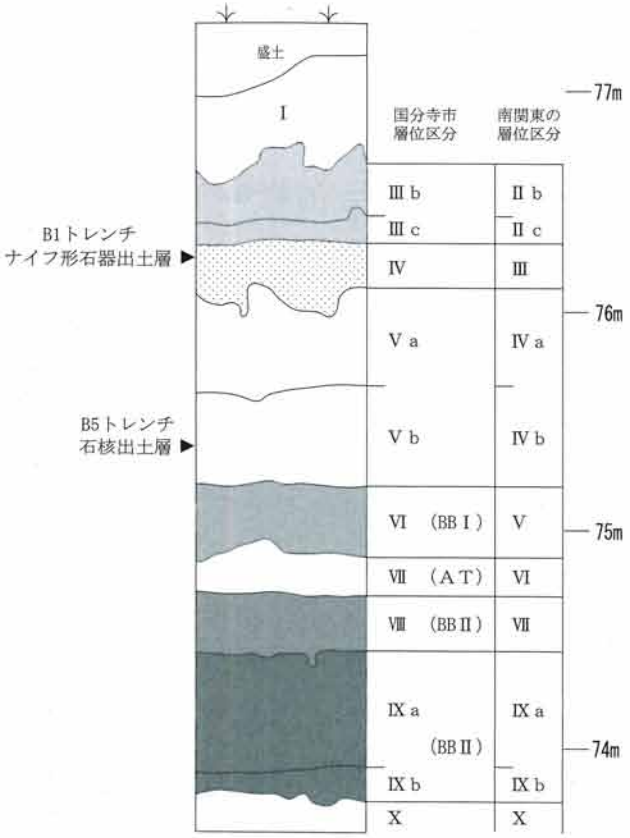
Ⅴｂ層　暗灰褐色ローム。ハードローム。色調はⅤａ層とⅥ層の中間。

Ⅵ層　暗褐色ローム。立川ローム第Ⅰ黒色帯。スコリアの細粒を含む。粘性高い。

Ⅶ層　黄褐色ローム。黄味が強く明るい。火山ガラスが肉眼で観察できる。

Ⅷ層　暗褐色ローム。立川ローム第Ⅱ黒色帯。黒味の強い下部とやや薄い上部に分けられるが、本報告では一括した。

Ⅸ層　黒褐色ローム。立川ローム第Ⅱ黒色帯下部。Ⅷ層より黒味を増し、細粒で下部ほど緻密となり粘性が増す。



第4図　基本土層柱状図

Ⅲ　調査の経過

1. 確認調査（恋ヶ窪遺跡第 82 次調査）

東山道武蔵路の検出を目的としたA-1 区・A-2 区と、縄文時代・旧石器時代の遺構・遺物の有無を確認するためのB-1 区～B-12 区の各トレンチを設定し、平成 19 年 9 月 3 日に重機による表土掘削を開始した。なお当調査区はB-12 区付近から急激に西へ下る地形であるため、現状において最も標高の低い調査区西端の地層の堆積を把握するために、調査途中でB-13 区を設定し、手掘りで確認を行った。この結果、B-13 区におけるロームの標高は他のトレンチとほぼ同様であり、従ってこの傾斜は自然地形ではなく後世の改変によることが確かめられた（第 5 図）。

A 区ではⅢ b 層上面において、周辺での調査事例から予測していた地点とほぼ一致して東山道武蔵路の東西側溝と思われる溝を確認したため、この面で調査を終了した。A-2 区より検出された土坑 SK1 は小規模であったため、この間で調査を行った。

B 区ではⅢ c 層上面で遺構確認を行ったものの、歴史時代・縄文時代の遺構は確認できなかったため、引き続き人力で旧石器時代の遺構確認に入った。その結果、B-1 区ではⅣ層中からナイフ形石器 1 点が、B-5 区ではⅤ b 層中から石核 3 点が出土した。調査区の東端に設定したB-1 区から遺物が出土したことにより、さらに東側に旧石器時代の文化層が広がる可能性が出てきたため、急遽B-14 区を設定して確認を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。石器類の取り上げはトータルステーションで行った。

9 月 25 日に高所作業車によって調査区の全景を撮影した。その後、遺構・遺物の検出されなかったトレンチは重機によって埋め戻し、10 月 2 日に確認調査を終了した。出土遺物は上記の旧石器のほか、表土から縄文土器、中近世の陶器・泥面子、Ⅲ b 層中から縄文土器・石器類が出土した。

2. 本調査（恋ヶ窪遺跡第 83 次調査･東山道武蔵路第 1 次調査）

本調査はA 区で検出された東山道武蔵路の調査と、旧石器が出土したB-1 区・B-5 区を拡張し遺構の広がりを明らかにすることを目的として 10 月 29 日に着手した。

A 区は新たな拡張は行わず、東山道武蔵路両側溝の覆土を 1 層ずつ除去しながら記録を取っていった。道路部分からは当時の使用面を検出することはできなかった。

B 区は拡張部分の表土を重機で掘削し、Ⅲ c 層上面で縄文時代の遺構確認を行った。B-5 拡張区ではここで縄文時代の小穴を 1 個検出したがB-1 拡張区では縄文時代の遺構は検出されな

かった。その後、各区とも人力でローム層の掘削を行い旧石器の検出に努めたが、B-1 拡張区で 1 箇所の炭化物集中地点と 1 点の親指大の自然礫が出土し、B-5 拡張区で 2 箇所の炭化物集中地点を検出したのみであった（第 6 図）。

11 月 22 日に高所作業車によって調査区の全景を撮影した。調査も終盤に入った 11 月 25 日には国分寺市教育委員会の主催による現場見学会を行い、200 名近い参加者があった。11 月 29 日には現場の埋め戻しが完了し、現地調査を終了した。引き続き、国分寺市遺跡調査会武蔵事務所にて室内整理作業に移行した（第 1 表）。

第1表　発掘調査工程表

K2-82次確認調査

		9月					
		1～10日		11～20日		21～30日	
A1区	表土除去	━━					
	歴史時代調査		━━	━━			
A2区	表土除去	━━					
	歴史時代調査			━━	━━		
B区	表土除去	━━					━
	歴史時代調査		━				━
	縄文時代調査		━				━
	旧石器時代調査		━━	━━	━━	━━	━

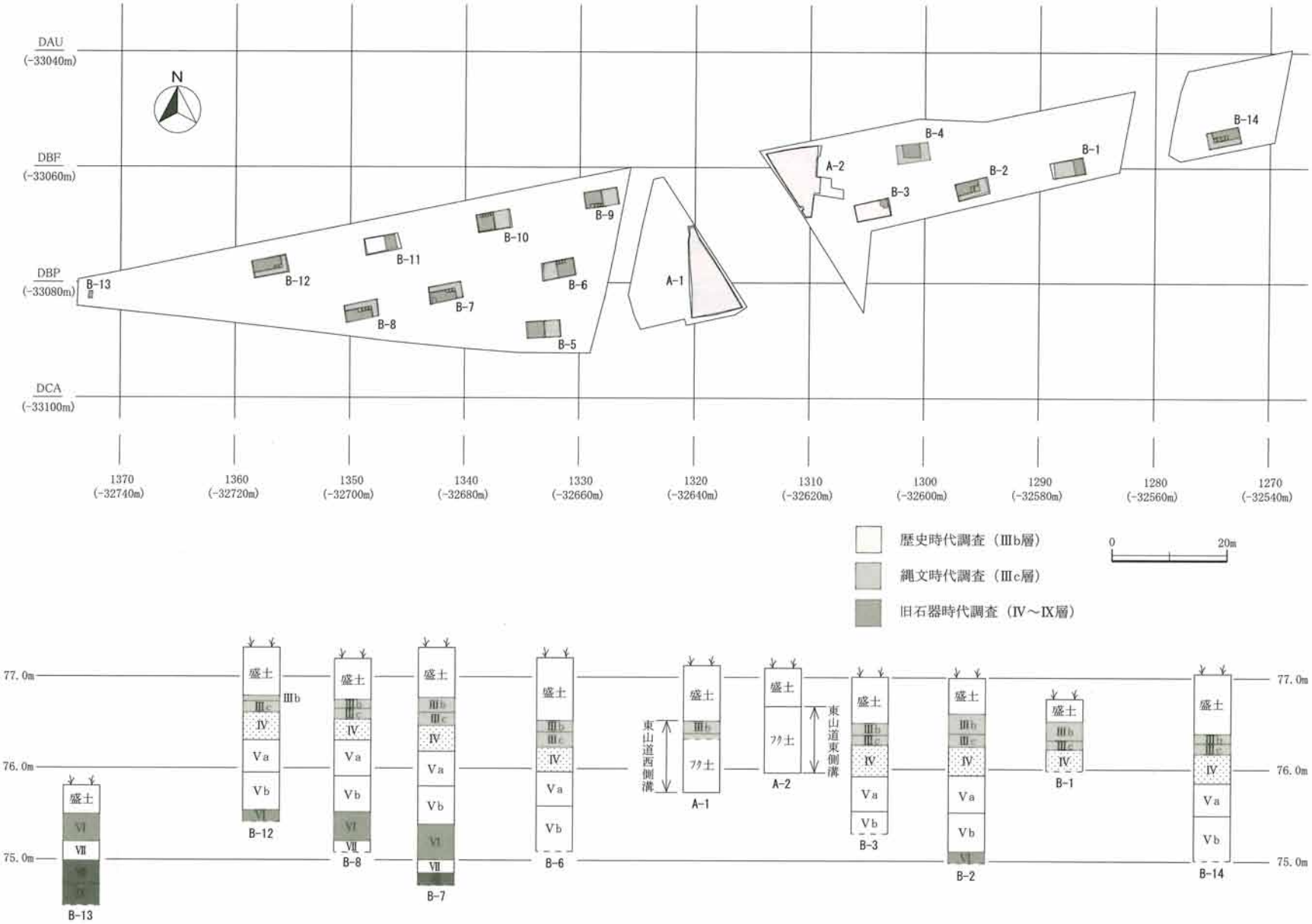
K2-83次本調査

		10月		11月					
		21～31日		1～10日		11～20日		21～30日	
B区	表土除去		━━						
	歴史時代調査		━━	━					
	縄文時代調査		━━	━					
	旧石器時代調査			━━	━━	━━	━━	━━	━

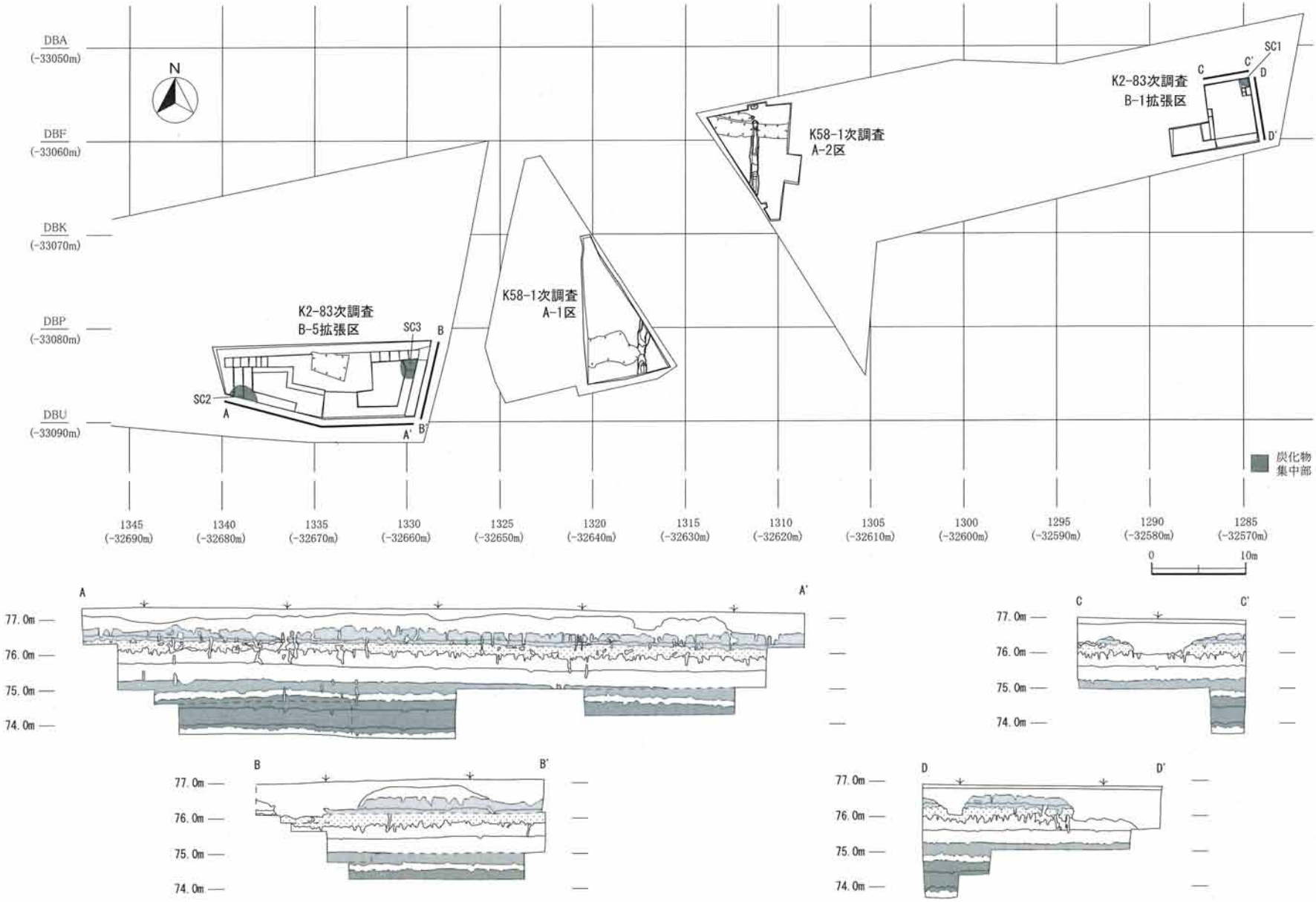
K58-1次本調査

		10月		11月					
		21～31日		1～10日		11～20日		21～30日	
A1区	歴史時代調査		━━	━━	━━	━━			
A2区	歴史時代調査						━━	━━	━

※ 埋め戻し・撤収作業は含まない。



第5図 K2-82次調査 全体図

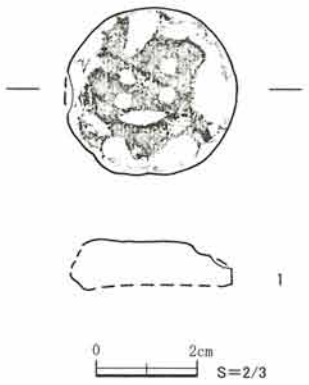


第6図 K2-83・K58-1次調査 全体図

Ⅳ　検出された遺構と遺物

1. 歴史時代の遺構と遺物

当調査区で検出された歴史時代の遺構は、A-1 区より溝 1 条、小穴 4 個、A-2 区より溝 1 条、土坑 1 基、小穴 1 個であった。遺構に伴う遺物はまったく検出されなかったが、Ⅲで述べたように確認調査において表土中より中近世の陶器・泥面子が出土している（図版５）（第２表）。図示したのは泥面子で、A-1 区表土から検出された。直径 3.4 cm、厚さ 1.0 cmを測り、色調はにぶい黄橙色を呈する。片面に「魚」と型押しされている（第７図）。



第7図　泥面子実測図

SD2 溝（第８・９図）（巻頭図版 1）（図版 1）

東山道武蔵路の西側溝と考えられるが、恋ヶ窪遺跡第 8 次調査（広瀬･遠藤 1980）などで検出された SD2 溝の延長線上にあるため上述のように呼称する。

＜位置＞　DBO1317、DBP1316・1317、DBQ1317、DBR1317 に所在する。溝の長軸は座標経線に対して 2°東偏する。

＜形状＞　調査区内で検出された全長は溝芯で約 4.8m を測る。平面形は中央部が西側にやや張出し、緩やかな「く」字状を呈する。上面幅は北側約 1.3m、中央部約 0.9m、南側約 1.0m である。底面は南北が深く、中央が浅く掘りこまれており、確認面からの深度は北側約 0.8m、中央部約 0.1m、南側約 0.7m である。北側と南側の断面は、上部が広く下部が狭い「Y」字状を呈する。中央の浅い部分の断面は「U」字状を呈する。

＜覆土＞　5 枚の堆積が認められる。2 層は基本土層のⅢb 層に酷似し、最もしまりが強く硬質である。3 層は西国分寺地区などで検出されている「黄褐色土層」に類似する（3 層の色調は厳密には黄褐色ではないが、調査時の感覚では上下の層に比べ明らかに黄味が強く一目瞭然であるところから、鉤括弧付きで「黄褐色土層」と呼称することにしたい）。北側のセクションでは 3 層はさらに 3 枚に細分でき、上面の 3a 層は非常に硬質であった。5 層は底の深い部分にのみ堆積しており、水平な堆積状況を示すことから、人為的に埋め戻されたか、掘削時に掘り上げず整地したものと考えられる。4 層より上は長軸方向・短軸方向ともにレンズ状に堆積している。

＜出土遺物＞　なし

＜時期＞　当調査区内で時期を特定する手がかりは得られなかった。所沢市東の上遺跡出土の須恵器や武蔵国分寺跡における僧寺区画溝との切りあい関係から、SD2 溝の掘削時期は 7 世紀後半～ 8 世紀前半と考えられる。

P-1 ～ P-4 小穴（第 10 図）　SD2 溝の覆土 2 層を除去したところ、3 層上面より小穴が 4 個検出された。P-1 ～ P-3 小穴は DBP1317 に所在する。P-1 小穴は長軸 25 cm・短軸 18 cmの楕円形で深さは 11 cmを測り、底面は 4 層に達する。P-2 小穴は長軸 30 cm・短軸 18 cmの楕円形で深さは 11 cmを測る。底面は径 8 cm程の 2 つの円に分かれ、4 層に達する。P-3 小穴は径 17cm の円形で深さは 2 cmを測る。P-4 小穴は DBR17 に所在する。径 16 cmの円形で深さは 5cm を測る。覆土上層はいずれも SD2 溝の 2 層であり、P-3 小穴以外ではその下層に暗褐色の軟質土が堆積していた。出土遺物はない。

SD5 溝跡（第 11・12 図）（巻頭図版２）（図版２）

東山道武蔵路の東側溝と考えられるが、恋ヶ窪遺跡第 8 次調査（国分寺市教育委員会 1980）などで検出された SD5 溝の延長線上にあるため上述のように呼称する。

＜位置＞　DBD ～ DBH1311 に所在する。溝の長軸は座標経線にほぼ平行する。

＜形状＞　DBD1311 で一箇所途切れる。調査区内で検出された全長は、途切れる部分を含めて溝芯で約 9.5m を測る。上面幅は 0.7 ～ 1.0m である。底面は SD2 溝と同様、深い部分と浅い部分が連続しており、確認面からの深度は深い部分で約 0.8m、浅い部分で 0.1 ～ 0.2m を測る。深い部分の断面は、上部が広く下部が狭い「Y」字状を呈する。浅い部分の断面は「U」字状を呈する。

＜覆土＞　4 枚の堆積が認められる。SD5 溝の 2・3・4 層は SD2 溝の 3・4・5 層にそれぞれ対応しており、2 層が「黄褐色土層」である。2 層には所々非常に硬化している部分が認められた。

＜出土遺物＞　なし

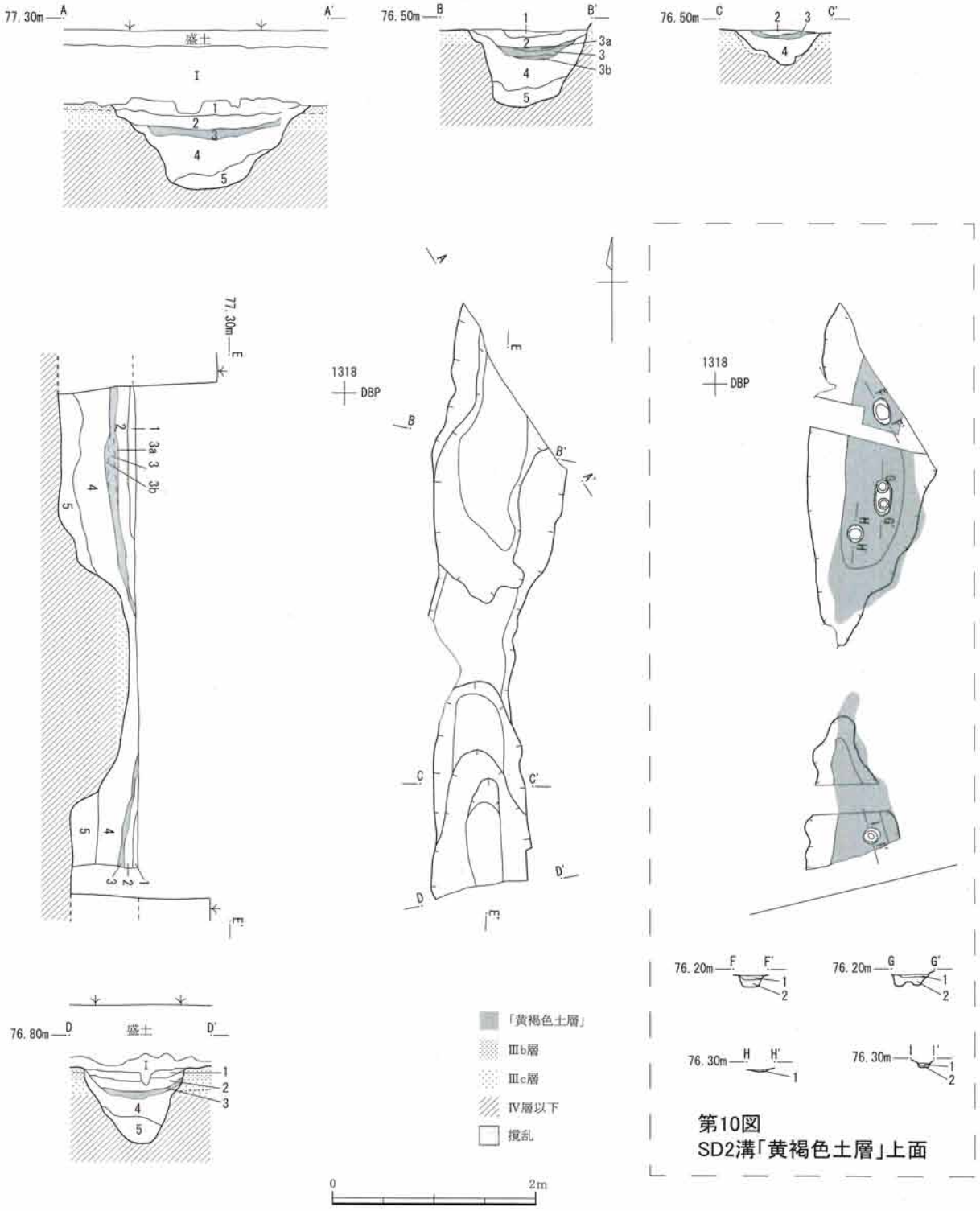
＜時期＞　SD2 溝に同じ

SK1 土坑（第 11・12 図）（図版３）　DBF1309、DBG1309・1310 に所在する。長軸約 1.8m・短軸約 1.1m・深さ約 0.2m を測る隅丸長方形を呈し、主軸は座標経線に対して 13°東偏する。覆土は黒褐色土の単層であり遺物の出土はない。中世以降の所産であろう。

P-5 小穴（第 11・12 図）（図版２）　DBD1311 の SD5 が途切れる箇所に所在する。径約 40 cmの

不整円形で確認面からの深さは13 cmを測る。3枚の堆積が認められ、1層はSD5溝の3層に類似する。出土遺物はなく、時期は不明であるが、位置や覆土の様相から東山道武蔵路と関連するものと判断する。

第8図 A-1区 平面図

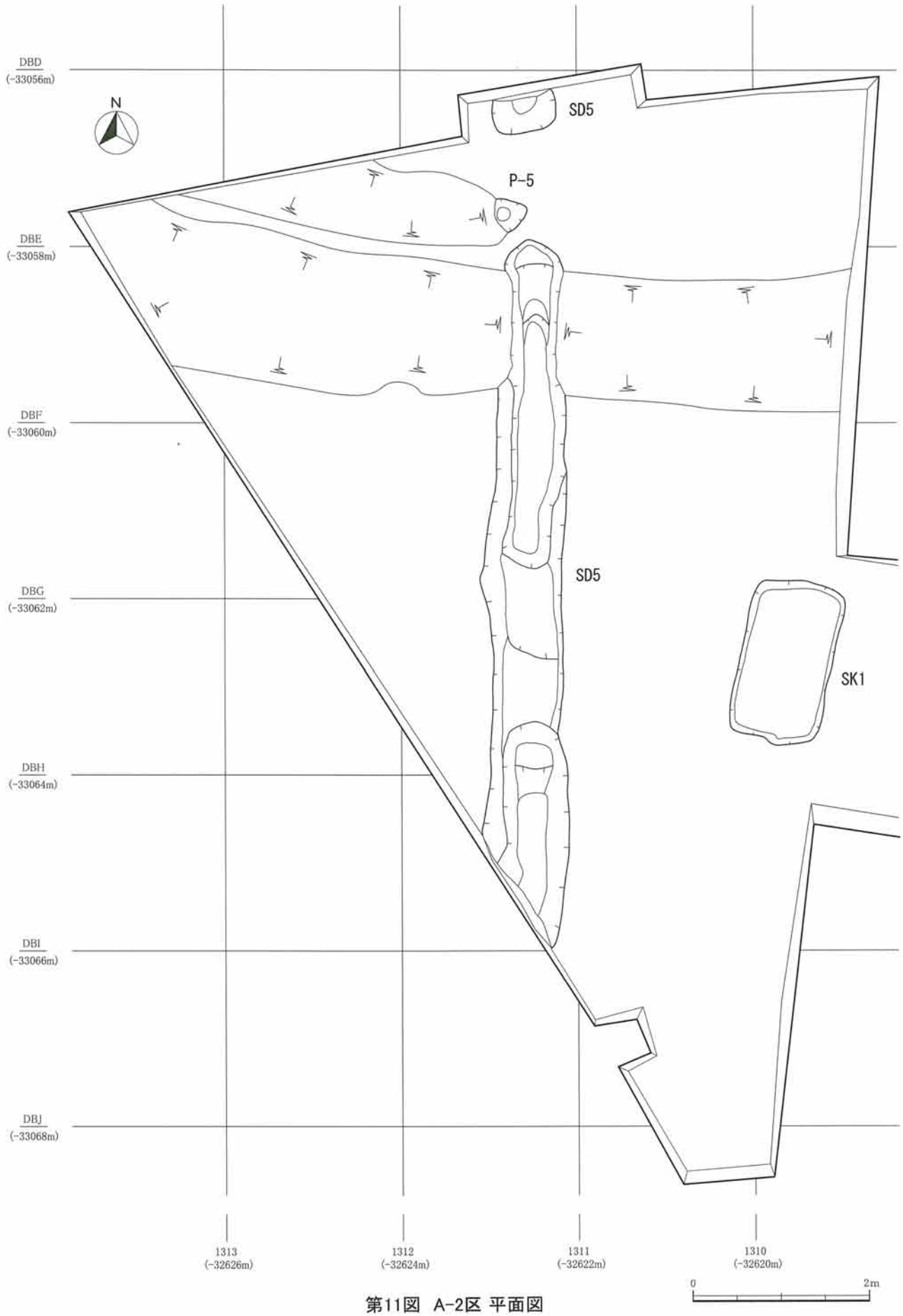


第10図
SD2溝「黄褐色土層」上面

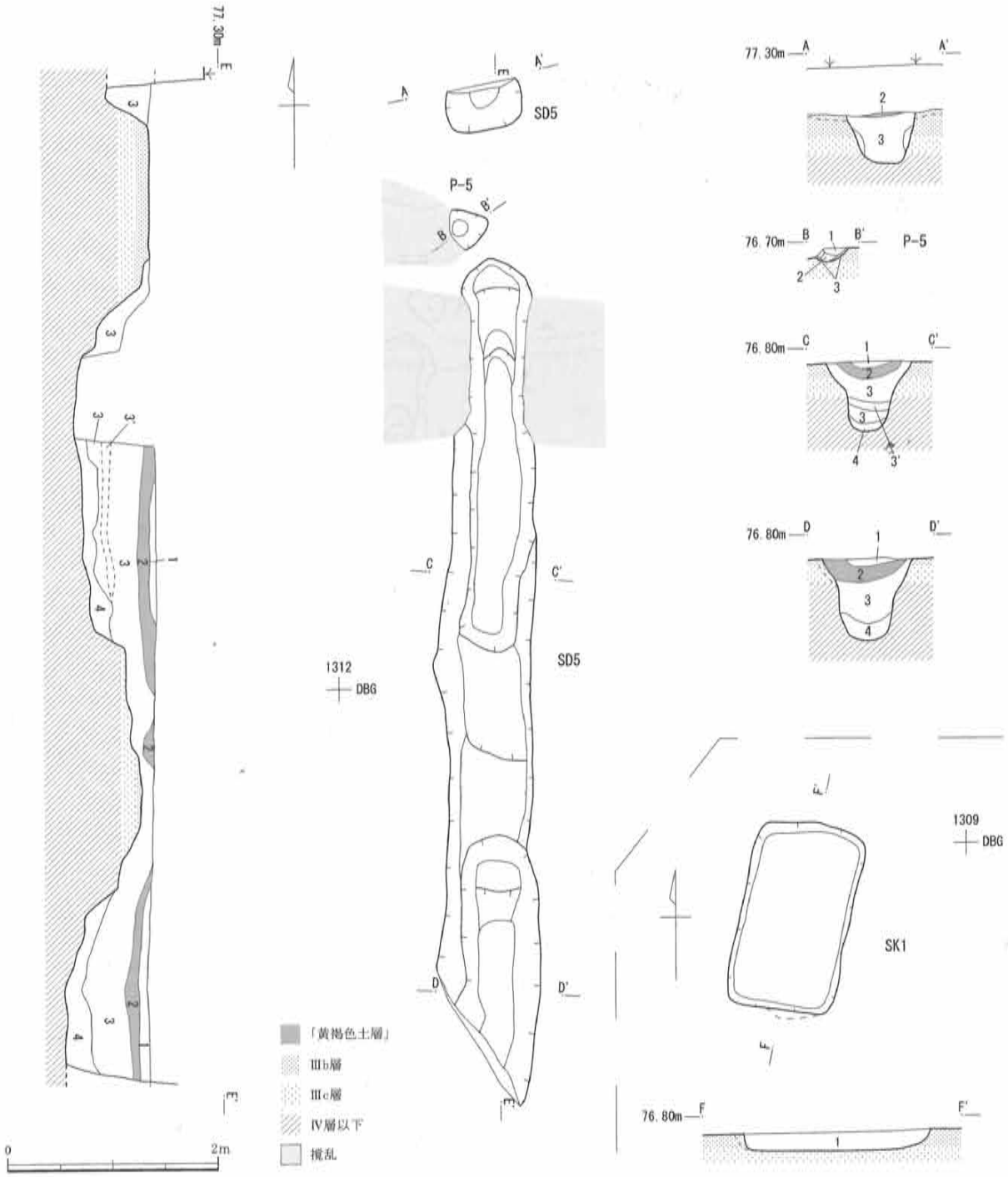
SD2溝跡

層位	色調		含有物・所見	しまり	粘性
1	10YR2/2	黒褐色	スコリアを少量・ローム粒をやや多く含む。	強い	弱い
2	10YR2/3	黒褐色	ローム粒を少量含む。非常にしまり強く硬質。	非常に強い	ややあり
3a	10YR3/3	暗褐色	ローム粒を少量・焼土をごく微量含む。非常にしまり強く硬質。	非常に強い	ややあり
3b	10YR3/2	黒褐色	ローム粒を少量・焼土をごく微量含む。すきまややあり。	ややあり	弱い
3c	10YR3/4	暗褐色	ローム粒を少量・焼土をごく微量含む。	強い	強い
4	10YR2/1	黒色	スコリア・ローム粒をやや多く含む。すきま多くポソポソしている。	弱い	ややあり
5	7.5YR5/8	明褐色	ロームブロックによる埋め土。	弱い	強い

第9図 SD2溝 平面図・断面図


DBD
(-33056m)
DBE
(-33058m)
DBF
(-33060m)
DBG
(-33062m)
DBH
(-33064m)
DBI
(-33066m)
DBJ
(-33068m)
N
SD5
P-5
SD5
SK1
1313
(-32626m)
1312
(-32624m)
1311
(-32622m)
1310
(-32620m)
0
2m

第11図 A-2区 平面図



SD5

層位	色調		含有物・所見	しまり	粘性
1	10YR2/2	黒褐色	スコリア・ローム粒をやや多く含む。	強い	ややあり
2	7.5YR3/3	暗褐色	スコリア・ローム粒をやや多く、焼土を少量含む。所々非常に強くしまる。	強い	強い
3	10YR2/1	黒色	スコリア・ローム粒をやや多く含む。すきま多くボソボソしている。	弱い	ややあり
3'	10YR2/1	黒色	3層に似るが5mm～10mm大のロームブロックを少量含む。	弱い	ややあり
4	7.5YR5/8	明褐色	ロームブロックによる埋め土。	弱い	強い

P-5

層位	色調		含有物・所見	しまり	粘性
1	10YR2/2	黒褐色	ローム粒をやや多く含む。すきまあり。	ややあり	なし
2	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒を少量含む。	ややあり	弱い
3	7.5YR3/4	暗褐色	ロームを主体とし黒色土を少量含む。	強い	弱い

SK1

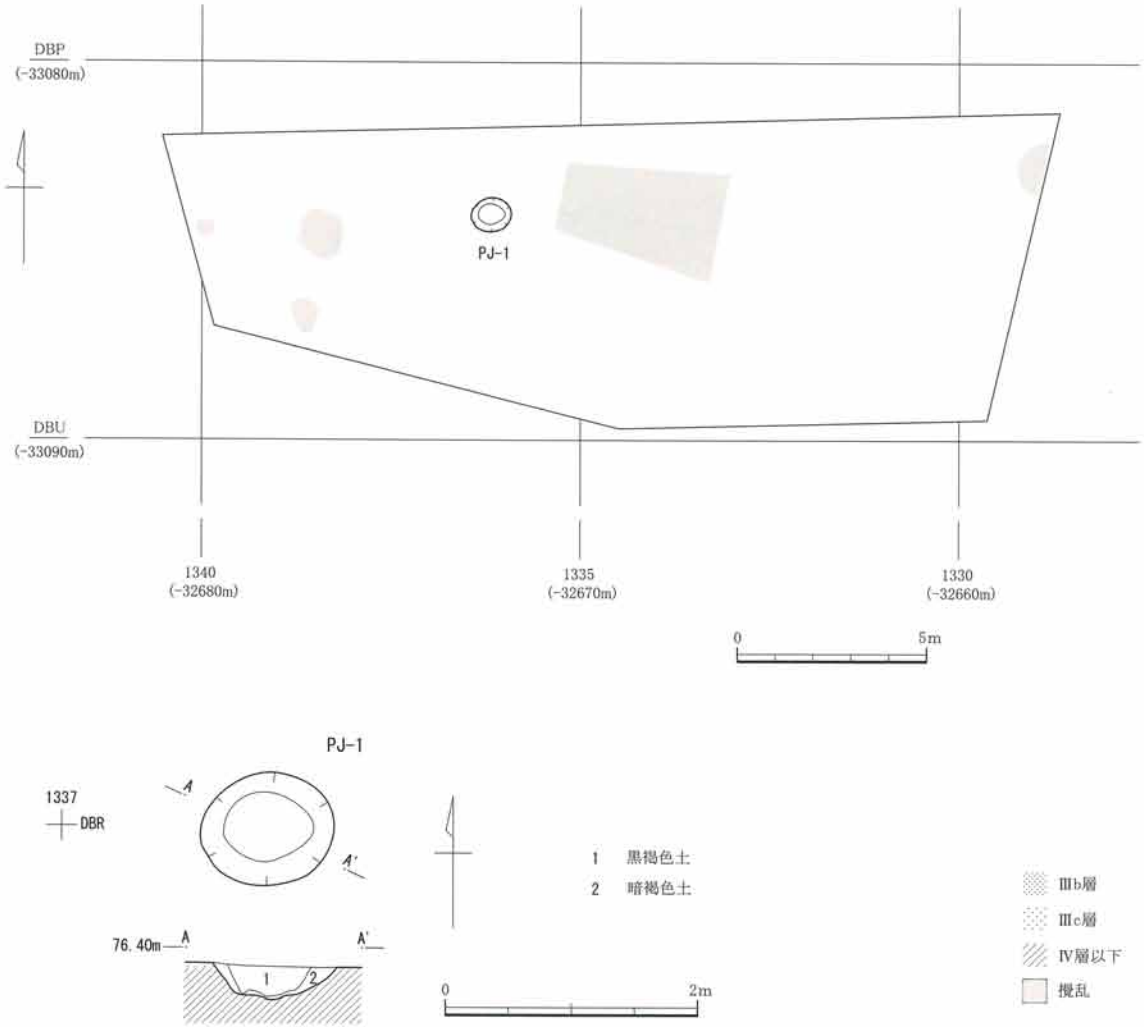
層位	色調		含有物・所見	しまり	粘性
1	10YR2/2	黒褐色	ローム粒をやや多く含む。	ややあり	弱い

第12図　A-2区 検出遺構平面図・断面図

2. 縄文時代の遺構と遺物

PJ-1 小穴（第 14 図） DBP1335 に所在する。直径 96 ㎝、深さ 23 ㎝を測る。出土遺物はない。そのほか、表土およびⅢｂ層中から縄文土器片が少量出土し、このうち２点を図示した（第 13 図）（図版５）（第３表）。

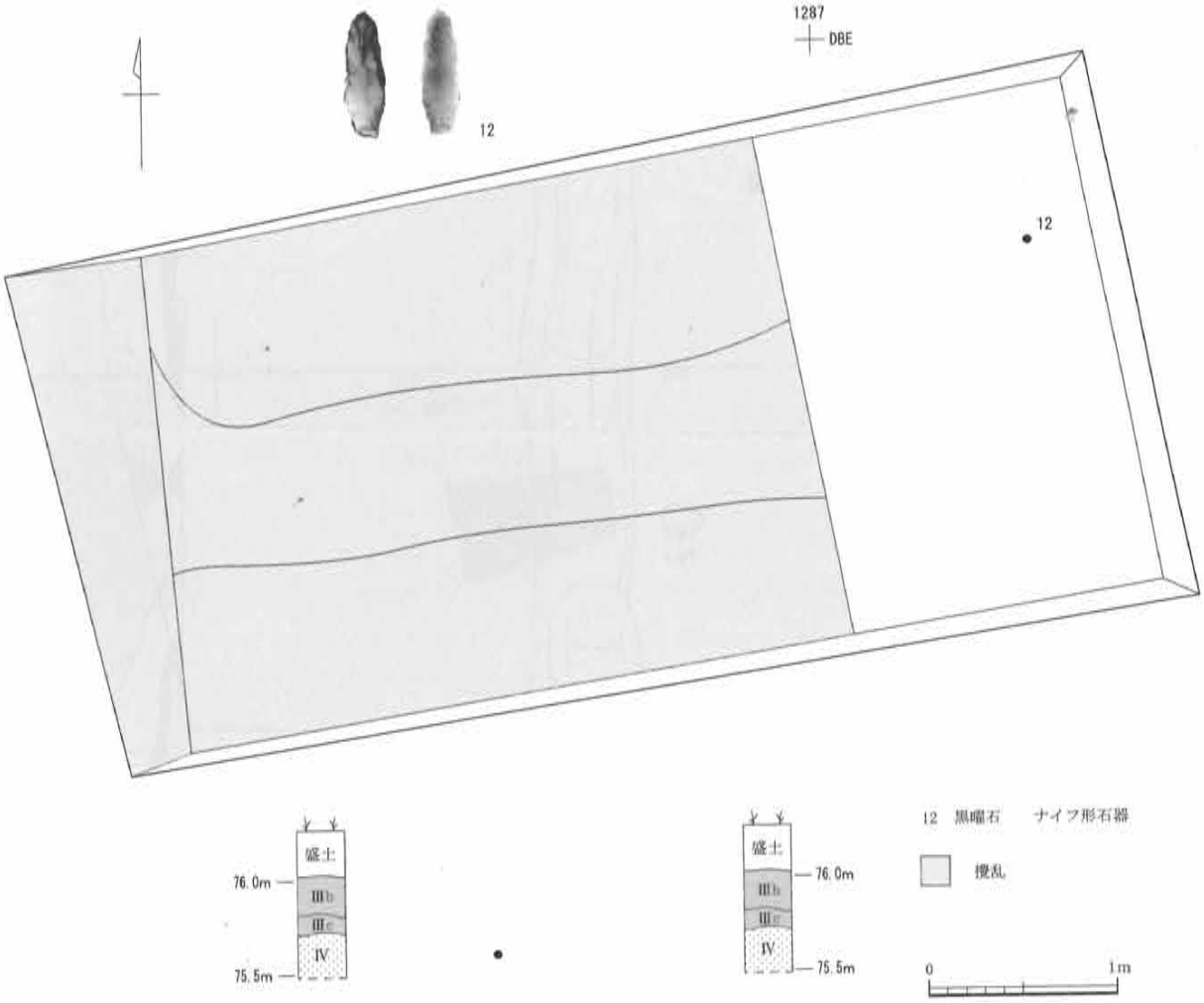
第13図　縄文土器実測図



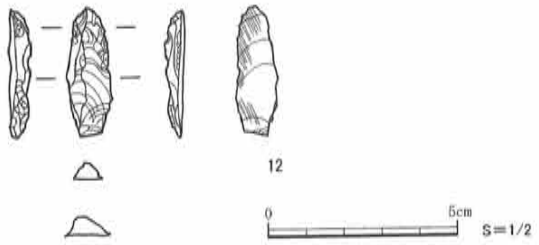
第14図 B-5拡張区　縄文時代全体図

3. 旧石器時代の遺構と遺物

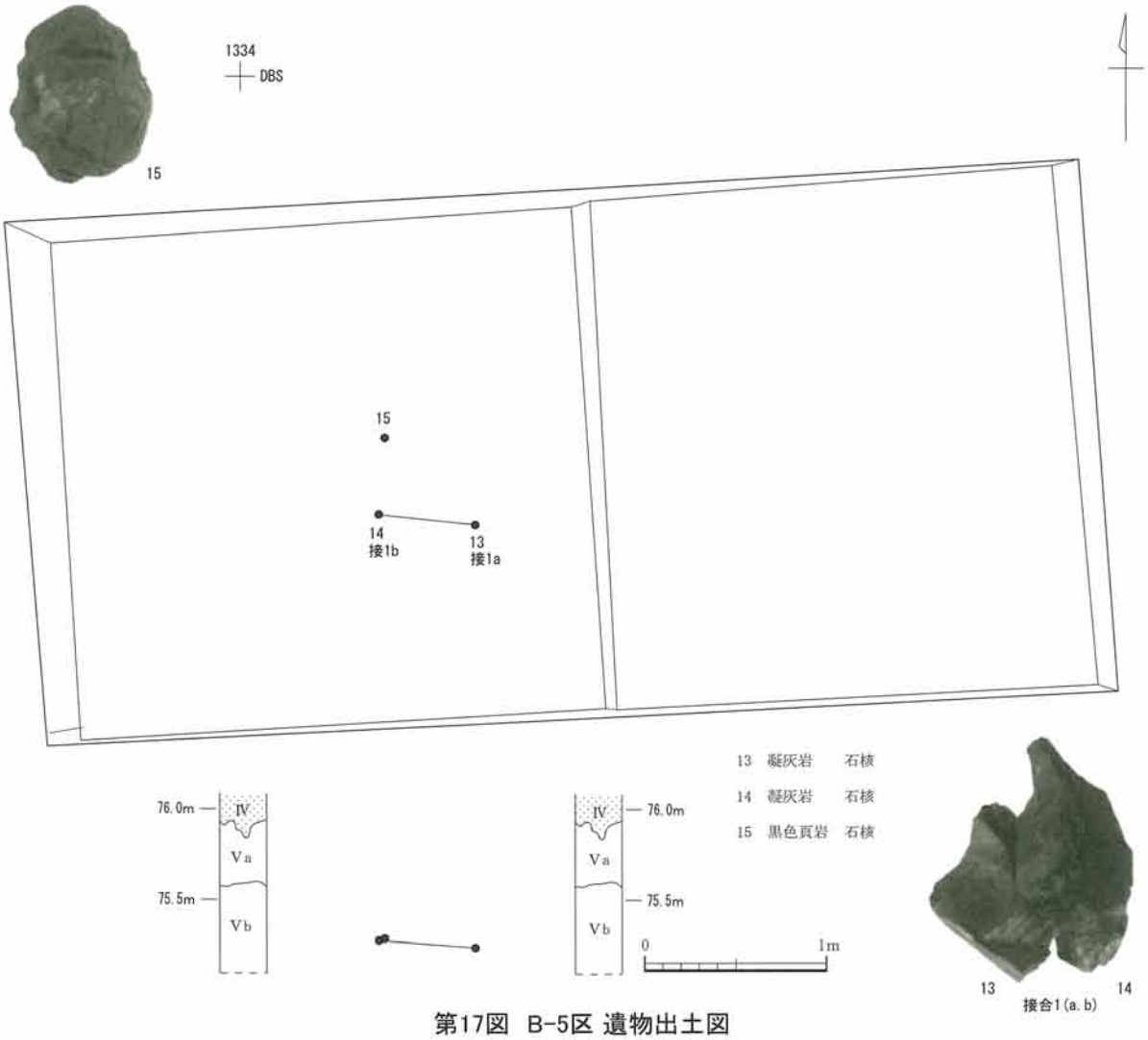
B-1 拡張区より炭化物集中部 1 箇所 (SC1)、B-5 拡張区より炭化物集中部 2 箇所 (SC2、SC3) を検出した（第６図）（図版４）。また確認調査において、B-1 区のⅣ層中（ソフトローム）からナイフ形石器 1 点が、B-5 区のＶｂ層中（ハードローム）から石核 3 点 (ST1) が出土した（第 15 ～ 19 図）（図版３・６・７）（第４表）。



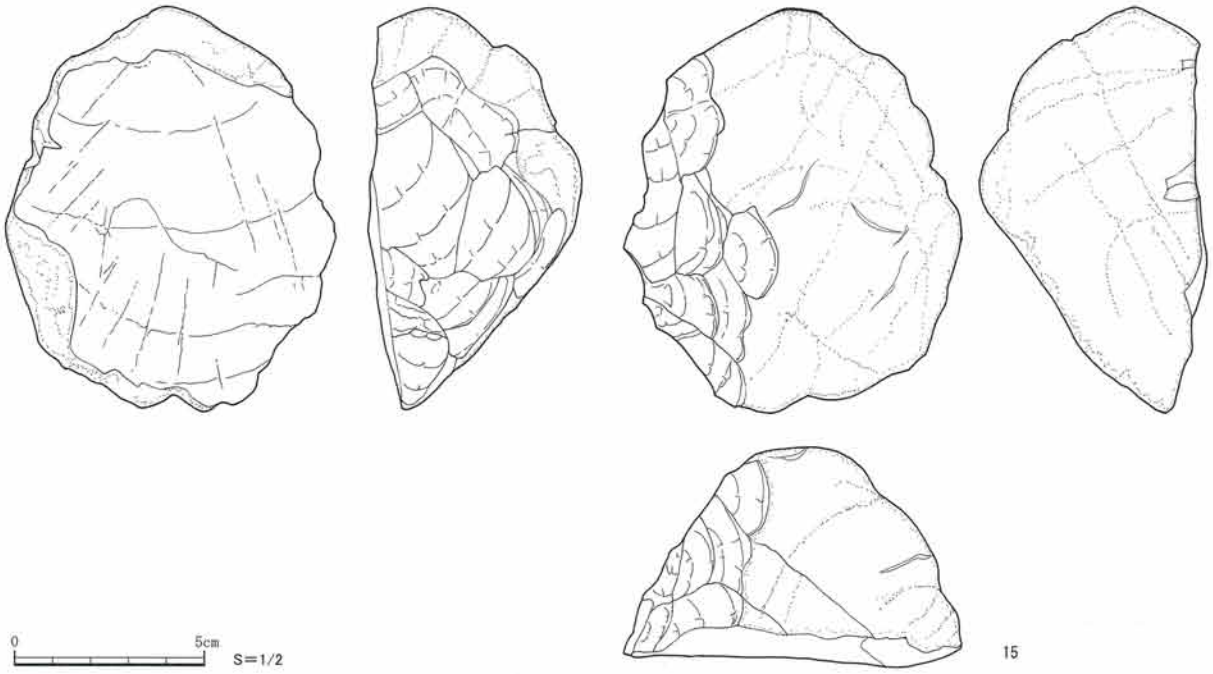
第15図 B-1区 遺物出土図



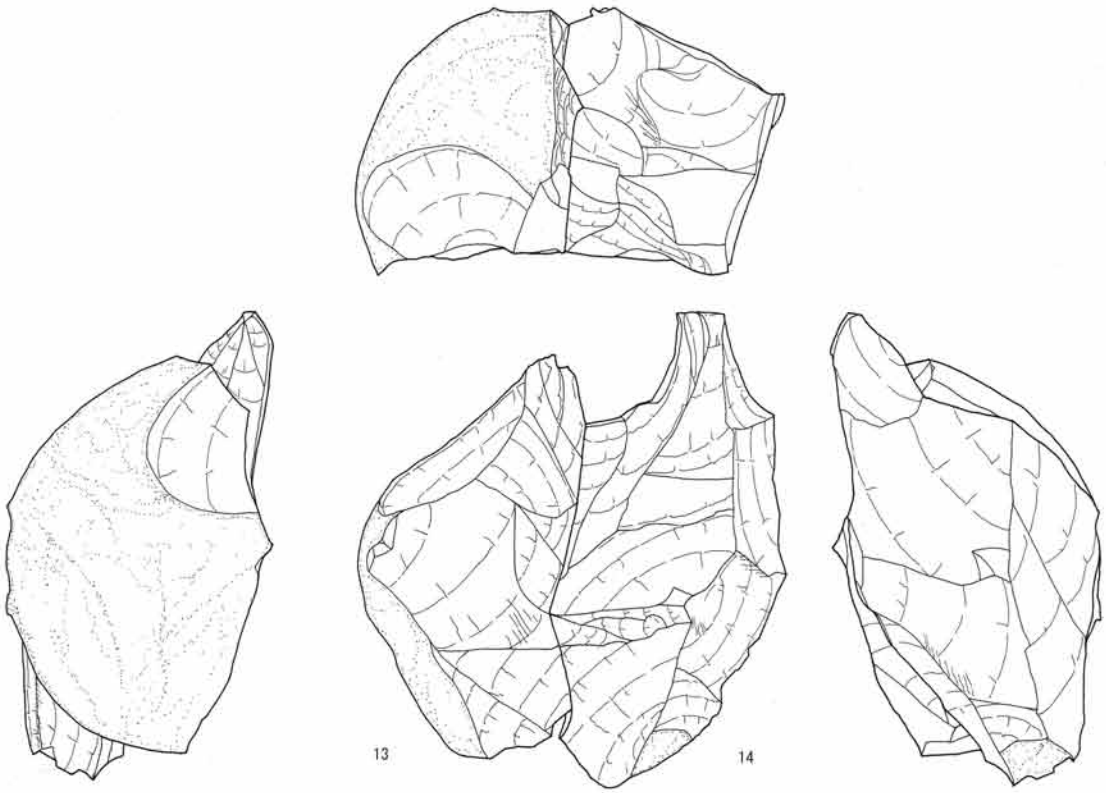
第16図 ナイフ形石器実測図



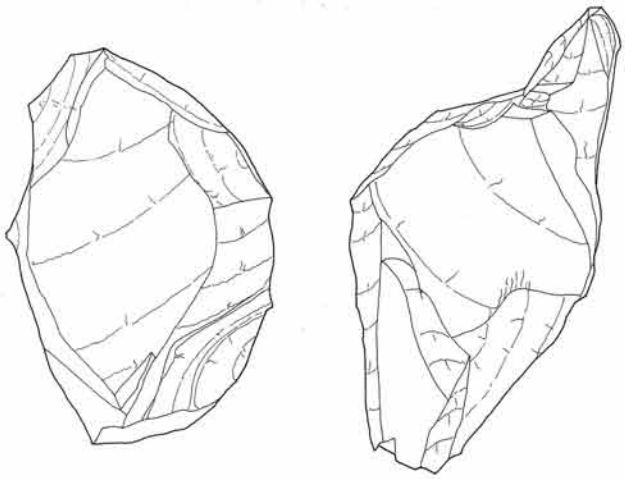
第17図 B-5区 遺物出土図



第18図 石器実測図(1)



接合1（a.b）



接合1a　13　　接合1b　14

0　5cm　S=1/2

第19図　石器実測図(2)

V 小 結

当調査区における旧石器時代および縄文時代の土地利用痕跡は希薄であり、恋ヶ窪遺跡の北限という従来の見解の変更を迫るものとはならなかった。歴史時代の遺構では当初の予測通り東山道武蔵路の東西側溝およびそれに関連すると見られる小穴などが検出された。しかし、側溝からの遺物の出土は皆無であり、調査区全体を通してみても歴史時代の遺物はほとんど検出されなかった。従って、以下では東山道武蔵路の調査から得られた知見に絞って述べていくことにする。

1. 位置と形状

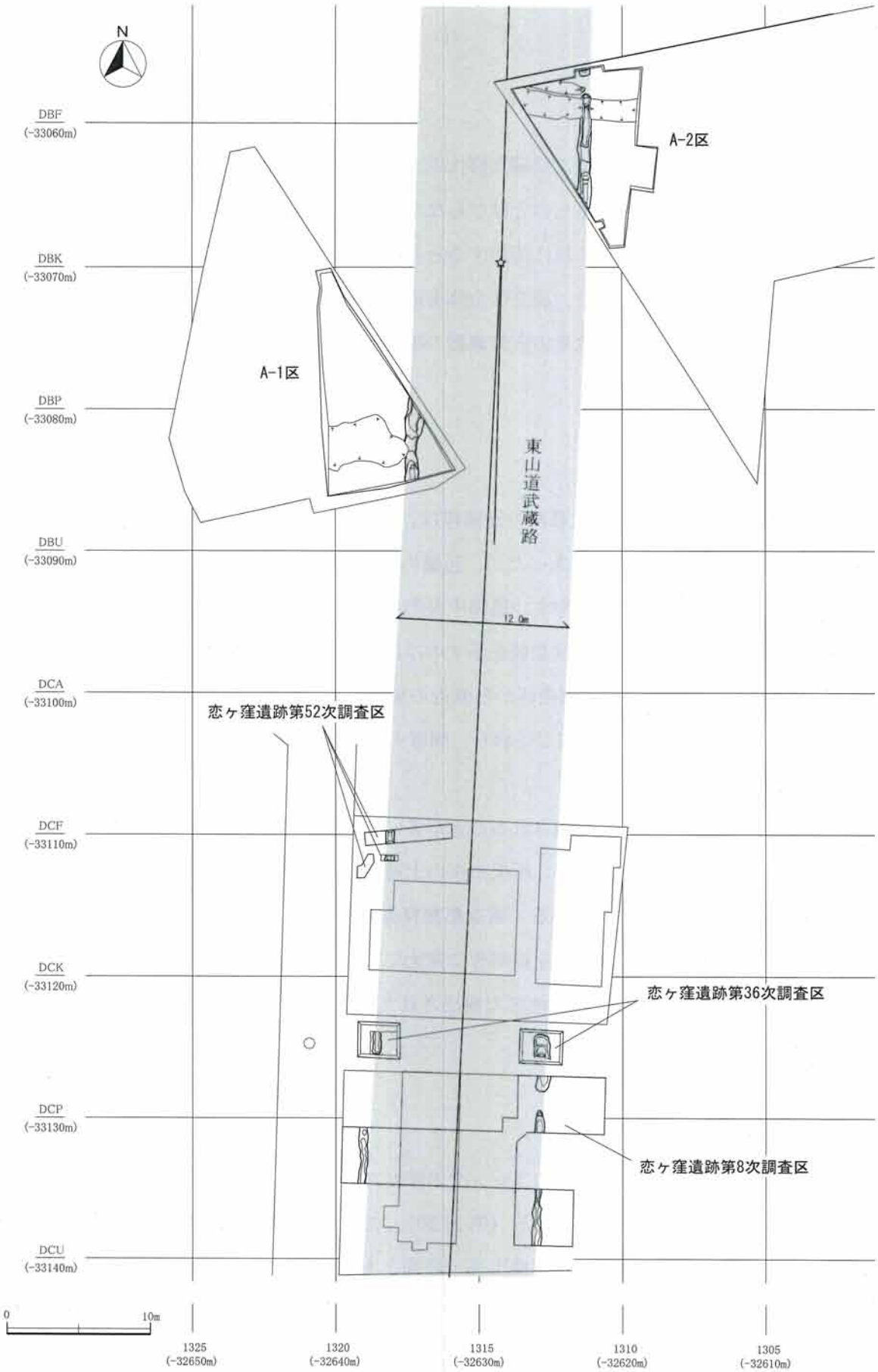
当調査区で検出された東山道武蔵路の道路幅は、溝の心々間で約 11.3m、上端外側で約 12m を測る。側溝の遺存状態は良好であったが、道路内に硬化面などの痕跡は認められなかった。もっとも、そうした痕跡が残存しやすい道路中央部が鉄道敷設時に滅失しているためとも考えられる。検出範囲が短いため正確な数値を示すのは困難だが、道路の推定中軸線は座標経線に対して 1.5° 東偏する。一方、当調査区から直近の恋ヶ窪遺跡における東山道武蔵路の中軸線の方向は座標経線に対して 3° 東偏しており、両者の交点は当調査区間の鉄道路線内に求められる（第 20 図の☆印）。

東山道武蔵路はその直線性が強調されることが多いが、厳密には道路主軸方向は府中市・国分寺市付近では真北よりやや東偏し、所沢市東の上遺跡および東村山市・小平市内の調査事例ではやや西偏することが知られている（東京都教育委員会 2000）。すなわち、東山道武蔵路は当調査区周辺から北では徐々に進路を西向きに変えていくものと考えられる。

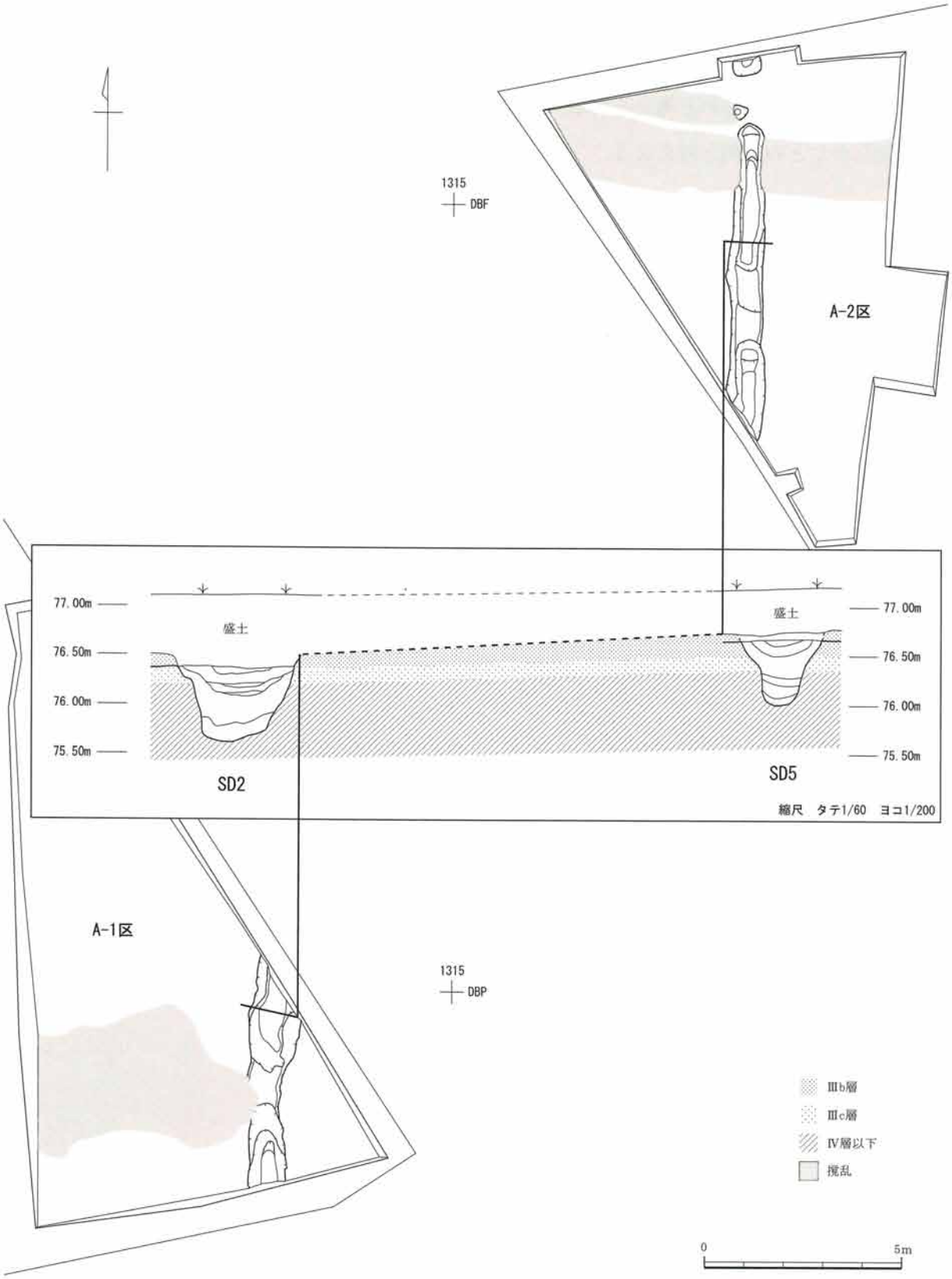
また、当調査区においては西国分寺地区で検出された、幅約 8m で側溝を伴う道路跡は検出されなかった。

2. 旧地形の状況

第 21 図は SD2・SD5 溝をそれぞれのトレンチの壁セクションに投影し、滅失した道路部分を補って作成したエレベーション図である（第 21 図）。これを見ると、両側溝は相対的にはほぼ同程度の深度ながら、SD2 溝のほうが検出面・底面とも約 40 cm低いことが確認できる。当調査区は第 5 図に示したように南北方向にはほぼフラットな地形が復元できるが、両側溝を同一レベルから掘削したとすると SD2 溝は SD5 溝より 40 cmも深く掘り下げたこととなり、考えに



第20図　調査区周辺の東山道武蔵路



第21図　東山道武蔵路エレベーション図

くく、両溝の検出面の比高差は当時の旧地表面の比高差を反映していると見るのが自然である。従って、東山道武蔵路周辺の旧地形は北東から南西へ、すなわち恋ヶ窪谷の奥部に向かって緩やかに傾斜していたものと考えられる。東山道武蔵路が地形の制約を無視して直線的なルートを志向したことの一例と言えよう。

3. SD5 溝跡ライン上の小穴

SD5 溝が途切れる箇所の北側で検出された小穴は、覆土が SD5 溝と類似しており、歴史時代の所産と考えられる。恋ヶ窪遺跡において歴史時代の遺構は東山道武蔵路を除いてほぼ皆無であり、小穴の位置からしても東山道武蔵路と何らかの関連を有する可能性が高い。形状的に柱痕跡とは考えにくいが、溝の途切れる箇所に存在する点は示唆的であり、掘削時あるいは設計段階における目標物の痕跡と考える。類例として武蔵国分寺跡第 48 次調査（有吉ほか 1984）で検出された、東側溝に切られる SK225 土坑の存在が上げられる（福田 2000）。本例は SK225 土坑に比べかなり小規模ではあるが、当時の地表面が確認面より若干高かったことを考慮すれば、簡素な目印杭程度であれば十分支えられたものと思われる。

参考文献

有吉重蔵ほか　1984『武蔵国分寺遺跡調査会年報Ⅱ』武蔵国分寺遺跡調査会　国分寺市教育委員会

飯田充晴　1991「埼玉県所沢市東の上遺跡」『日本考古学年報』42　日本考古学協会

上村昌男　1997『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ』国分寺市遺跡調査会　国分寺市教育委員会

実川順一　1986「第二節　国分寺市内における先土器時代の様相」『国分寺市史』上巻

東京都教育委員会　2000『道路遺構等確認調査報告』

早川　泉・板野晋鏡　1999『日影山遺跡・東山道武蔵路』西国分寺地区遺跡調査会

広瀬昭弘・遠藤　佐　1980『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ』恋ヶ窪遺跡調査会　国分寺市教育委員会

福田信夫　2000「武蔵国分二寺跡周辺」『道路遺構等確認調査報告』東京都教育委員会

第2表　歴史時代遺物観察表

遺物番号	図版番号	図面番号	調査次数	種別器形	出土位置	層位	器形の特徴	成・整形、文様の特徴	胎土	焼成	色調	登録番号	備考
1	1	第7図-1	K58-1	泥面子	A-1区	表土	円柱形	片面に「魚」の型押し	精良	良好	にぶい黄橙	PZ01	近世
2	2	—	K2-82	土師質土器	B-8区	表土	体部破片		精良	良好	明赤褐	—	中世？
3	3	—	K2-82	すり鉢？	B-11区	表土	底部破片		精良	良好	黒褐	—	中世？
4	4	—	K58-1	土管？	A-1区	表土	口縁部？破片		精良	良好	黒褐	—	近現代

第3表　縄文時代遺物観察表

遺物番号	図版番号	図面番号	調査次数	種別器形	出土位置	層位	器形の特徴	成・整形、文様の特徴	胎土	焼成	色調	登録番号	備考
5	5	第13図-5	K2-82	縄文土器深鉢	A-1区	表土	波状口縁部	竹管文。口唇部内面に粘土帯を貼り付ける。	砂粒多い	良好	にぶい黄橙	JE02	
6	6	第13図-6	K2-82	縄文土器深鉢	B-6区	表土	口縁部	無文	金雲母多い	良好	橙	JE01	阿玉台式
7	7	—	K2-82	縄文土器	A-1区	表土	胴部破片	無文	小石多い	やや不良	橙	—	
8	8	—	K2-82	縄文土器	A-1区	表土	胴部破片	無文	小石多い	やや不良	橙	—	
9	9	—	K2-82	縄文土器	A-1区	表土	胴部破片	無文	砂粒少量	良好	にぶい黄橙	—	
10	10	—	K2-82	縄文土器	A-1区	表土	胴部破片	縄文	砂粒少量	良好	にぶい黄橙	—	
11	11	—	K2-82	縄文土器	A-1区	表土	口縁部破片	無文	砂粒多い	良好	明赤褐	—	

第4表　旧石器時代遺物観察表

遺物番号	図版番号	図面番号	調査次数	器種	出土位置	層位	石材	接合	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	自然面	南北座標	東西座標	標高
12	12	第16図-12	K2-82	ナイフ形石器	B-1区	Ⅳ	黒曜石		3.4	7.5	0.5	1.6	なし	-33059.048	-32572.917	76.089
13	13	第7図-13	K2-82	石核	B-5区	Ⅴb	凝灰岩	1a	10.9	8.5	6.6	470.0	1/2	-33088.388	-32666.744	75.248
14	14	第7図-14	K2-82	石核	B-5区	Ⅴb	凝灰岩	1b	13.5	11.9	11.6	460.0	なし	-33088.332	-32667.270	75.280
15	15	第18図-15	K2-82	石核	B-5区	Ⅴb	黒色頁岩		10.6	9.0	5.6	590.0	1/2	-33087.908	-32667.246	75.293
16	16	—	K2-83	礫	B-5区拡張区	Ⅷ	チャート		2.4	1.1		4.0	なし	-33086.624	-32671.086	74.603
17	17	—	K2-83	礫	B-5区拡張区	Ⅸb	砂岩		4.4	2.7		18.2	一部	-33087.099	-32675.034	73.845
18	18	—	K2-83	礫	B-5区拡張区	Ⅸb	チャート		2.4	1.8		4.1	一部	-33086.914	-32675.911	73.902
19	19	—	K2-83	礫	B-5区拡張区	Ⅹ	砂岩		4.9	3.5		38.3	1/2	-33087.508	-32670.165	73.640
20	20	—	K2-83	礫	B-1区拡張区	Ⅸa	砂岩		2.3	1.6		6.7	一部	-33053.608	-32569.780	74.040

Ⅵ 総　括

武蔵国分僧寺と尼寺の中間を北から南に通過する東山道武蔵路は、国分寺市を南北に縦断している古代の官道であるすでに江戸時代に「上古の官道」と称され、地域の人々に伝えられていたこの道跡は、武蔵国が東山道に属していた宝亀2(771)年10月以前に上野国そして下野国の国府と武蔵国の国府を直結する官道であったが、その具体的な存在状態については明らかでなかった。

しかし、東の上遺跡（所沢市）の発掘によって東山道武蔵路の実態が知られ、ついで旧国鉄中央鉄道学園跡地の発掘によって300mを超える直線道路跡が検出された。

直線状に延びる両側溝を有する幅12m(～8m)の官道は、都市計画道路3・4・6号線の工事予定の地域を南北に直角に近く交差している可能性が想定されたことも蓋し当然のことであった。

発掘の結果、保存区域をさらに北方に延びる武蔵路のあり方が明らかにされたことは、今後における武蔵路の究明を進めるうえに大きな拠り所となる成果を挙げることができたのである。

（調査団長　坂詰秀一）

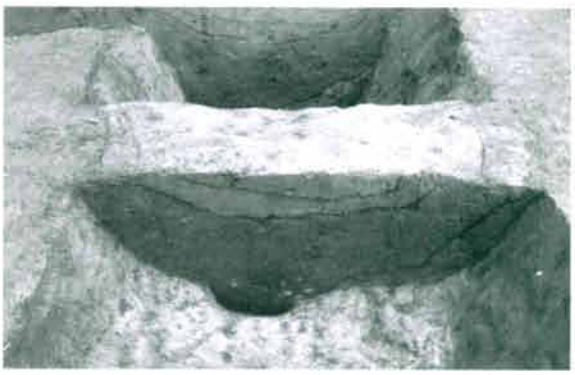
図　版

図版1　調査区東側全景・A-1区

確認調査 調査区東側全景（西から）

A-1区 SD2溝 完掘全景（西から）

A-1区 SD2溝 北ベルト断面（南から）



A-1区 SD2溝 南ベルト断面（北から）

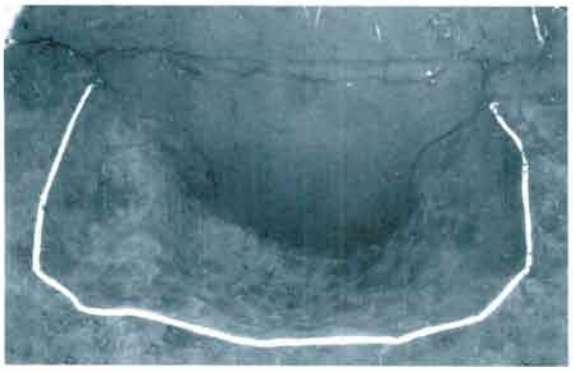
A-1区 SD2溝北側 覆土2層
除去後状況（南から）

A-1区 SD2溝南側 覆土2層
除去後状況（北から）

A-1区 SD2溝 検出状況（南から）

図版2 A-2区(1)

A-2区 SD5溝 完掘全景（南から）



A-2区 北辺拡張部 SD5溝 完掘全景（南から）

A-2区 SD5溝 2期路面検出状況
（北から）

A-2区 SD5溝 北ベルト断面（北から）

A-2区 SD5溝 南ベルト断面（北から）

A-2区 P-5小穴 完掘全景（北から）

A-2区 P-5小穴 断面（北から）

図版3　A-2区(2)・B区全景・B1区・B5区

A-2区　SK1土坑完掘全景（東から）

A-2区　SK1土坑断面（東から）

確認調査 B区西側全景（東から）

確認調査 B区東側全景（東から）

B-1区 旧石器時代全景（南から）

B-1区 ナイフ形石器出土状況（西から）

B-5区　旧石器時代全景（西から）

B-5区 石器集中部（ST6）（北から）

図版4　B-1拡張区・B-5拡張区・作業風景

B-1拡張区 旧石器時代全景（南から）

B-1拡張区 炭化物集中部（SC1）（南から）

B-5拡張区 旧石器時代全景（北から）

B-5拡張区 旧石器時代全景　（西から）

B-5拡張区 南壁断面（北から）

B-5拡張区 炭化物集中部（SC2）（北から）

B-5拡張区 炭化物集中部（SC3）（南から）

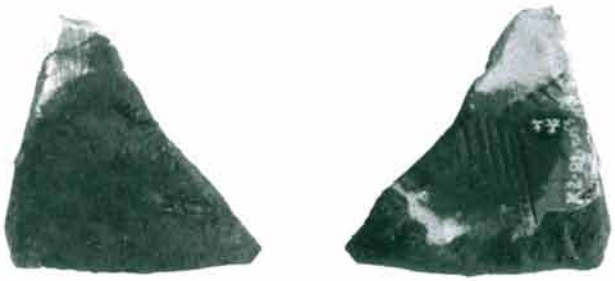
作業風景（西から）

図版5 歴史時代・縄文時代遺物

1

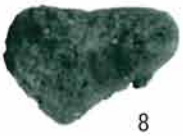
4

2


3

5

7


8

9

6

10

11

S=3/4

図版6 旧石器時代遺物(1)

12

15

19

20

18

17

16

S=3/4

図版7 旧石器時代遺物(2)

13（接合1a）

14（接合1b）

S＝3/4

報告書抄録

ふりがな	とうさんどうむさしみちはっくつちょうさがいほうⅠ
書名	東山道武蔵路発掘調査概報Ⅰ
副書名	都市計画道路3・4・6号線築造工事に伴う調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	国分寺市遺跡調査団(団長 坂詰 秀一) 小野本 敦
編集機関	国分寺市遺跡調査会
所在地	〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1丁目6-1 国分寺市教育委員会内 ☎042-325-0111
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こいがくぼいせき 恋ヶ窪遺跡 とうさんどうむさしみち 東山道武蔵路	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪 ひがしこいがくぼ 東恋ヶ窪	13-214	No. 2 No. 58	35° 41′ 51″	139° 28′ 19″	2007. 9. 3 ～ 2007. 11. 29	561. 42	道路築造工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
恋ヶ窪遺跡	集落跡	旧石器時代	旧石器時代 炭化物集中地点 3箇所 石器集中地点 1箇所	ナイフ形石器 石核	
		縄文時代(早～後期)	縄文時代 小穴 1個	縄文土器	
東山道武蔵路	道路跡	奈良・平安時代	歴史時代 溝 2条 土坑 1個 小穴 5基	陶器 泥面子	溝2条は東山道武蔵路の東西側溝

東山道武蔵路発掘調査概報 I

—都市計画道路 3・4・6 号線築造工事に伴う調査—

発行日	平成 20 年 3 月 31 日
編著者	国分寺市遺跡調査団 © (団長　　坂誥　秀一)
発行所	国分寺市遺跡調査会 〒185-8501　国分寺市戸倉 1-6-1 TEL　042-325-0111(代表) 東京都国分寺市教育委員会内
印刷所	株式会社　東プリ

令和４年(2022) ８月16日　デジタル版作成